

日刊 磐城時報

編輯者 石城郡平田町 弘成
印刷所 石城郡平田町 弘成
發行所 石城郡平田町 弘成
電話 一四七
代金 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 一行十四字 一日五字 五日十元 一月三十元 三月九十元 半年一百五十元 一年三百元
日刊 (日曜、祭日) 休刊

遅くも二十日頃迄に 水道起債認可されん

準備をすむ町當局

平町の水道起債は、おそくも二事務の關係上助役を兼任せしめ十日頃までは認可となるべく技術者を主任とするが適當では平町では種々準備をすむべく、いかに議論も起つてゐる。

石城清酒品評

平町から工事着手する關係上、郡酒造組合主催第十一回清酒品評会は、十八日から二十日まで、長入選中で、若くは工学事務署樓上において開催する等、士級の人物を選ばば、近日發であるが審査官として仙臺監督表を見るものと観られるが、尙は局から佐藤技師派遣される由。

新入學生からの 寄附金は考慮せよ

一部小學校の弊風

各小學校の児童の卒業期も切迫供が可愛で學校より申されたして來た、各校の卒業生は謝恩通り寄附金を出したのであるが、の意味で母校に記念として卒業この弱点につけ込んでの寄附募集が僅少な金を出して記念品を、集は児童教育上より見るも不可、殘して校門を出ることは長い間の習ひとなつてゐるが、卒業生が自發的に記念品を學校や先生に贈ることは美しいことで、非難すべきものではないが、新入學を記念とするといふ名目のものに、縣下小學校中に一年生入學に農林省屬井上文之、同助手千代日間の豫定で詳細なる調査を行、實際に父兄より寄附を受けんと、島廣次兩氏は今回政府が計劃中ふ事になつたが、今回の調査は主、してゐる學校のあることは甚だの農作物災害保險法案に關するとして水稲の早害、水害、風害、遺憾なことであつて可愛子供を調査のため九日石城郡に來り、石であつて調査日割は左の如く決、始めて入學せしむる家庭では、子城郡農會技師と共に九日から九日定した。

農作物保險法の 準備調査目割

井上屬外一名來郡

九日飯野、神谷、十日夏井、高久、十一日四倉、大野、十二日平窪、好間、十三日赤井、小名濱、十四日平、渡邊、十五日小名濱、玉川、十六日泉、内郷、村で、武徳殿建築、石城郡内郷村では武徳殿を建設すべく有志が奔走中であつたが、寄附金二千七百圓が纏つたので、大字宮に千九百圓を投じて建設する事になつた、來る四月二十日頃竣工の豫定である。

平商業校卒業式

優等生五名、精勤者十六名

平商業學校卒業式は十二日午前九時より舉行されるが優等生五名、精勤者十六名である。

優等 高野巖、根内武久、瀧口虎雄、馬土榮、大平甲祐、川茂夫、磯貝四郎、長谷川正夫、原恒、新妻清、本間七三吉、大島進、大原民夫、大塚幸太郎、押田正光、渡邊正治、渡邊正元、渡邊虎雄、川村信義、河原正平、龜岡定雄、高野巖、丹野正二、瀧口虎雄、横田中、高田功、樽石勇藏、楠和夫、高橋辰雄、根内武久、中島清、永山秀明、山本康雄、片久守弘、草野保久保未正己、片島治三郎、黒宗市次男、神長廣(九假名)は昨日、善文、山田文平、谷口秀雄、松下弘、松崎信、福田宗男、神澤義夫、福田信武、小松正美、小沼武雄、小松正平、五味潤秀雄、遠藤正美、倉田邦男、阿部康藏、新井彦一郎、齋藤勇、齋藤橋、坂本傳太郎、齋藤信治、佐々木榮一、

八分配當は確實 面目一新の植田水電

過剰電力を消化し 借入金は長期に書替

石城郡植田町植田水力電氣株式會社は、從來來城礦經營の弊事になつた、尙ほ植田水力電氣會社では從來短期の借入金があつたが、現在の如き財界不況時ではその償還が容易でないため十六ヶ年賦の長期起債をなし短期借入金は全部償還したので同會社では過剰電力の消化と相ま

縣下からた競技大會

主催 磐城時報社 有明會社

氣にも留松少年はいつぞ磐城の炭山にて膝を病身の父と妹を養はんと思つて去月未懐中無一文にて仙臺を飛び出したが湯本町まで漸く辿りついた頭には十日間に亘る疲労と空腹で自由を失ひその夜は隣

古鐵や機械を盗む 大膽な古物商の息子

當時石城郡湯本町字辰の口居住百圓を窃取し自宅に隠匿してお

驚いた!!!

構内に假宿し翌七日炭礦を尋ねんとしたが身がきかす泣き倒れてゐた...

不具者の父を 救ふため家出

去る七日午後十一時頃石城郡湯本町湯本橋内に一見十三三歳の少年が飢えと寒さに泣いてゐるのを平町白銀町丸山隆市氏が發見し事情を尋ねたところ同少年は

原町通信

中村町會

中村町昭和五年度豫算審議のため再度招集した二日目の町會は十日午前九時より町役場議事堂に開かれた、出席議員十三名、大内助役議長席に着き同十時三十分開議直ちに第三小學校費の質問に入つたが出席議員の大半は常任當局に對し或種の感情を抱くもので加ふるに議長の不慣れが動機となり開會二十分にして議場忽ち騒然果ては大事問題を引つ張り出すもの現れた始末に議場の整理更につかす途に三たび休會を宜するに至つたが、由來、同町明年豫算審議について町會議員の態度は甚だ非立憲的であり町會議員個々の感情が端を發し町會議議事の進行を阻害するが如きは議員として價値なきものとなるのみならず町民を侮辱してゐるものであるとて、地方民の町會議員に對する非難は露々として起るに至つた。

納税米納金問題

ノ町で三年度からの納税米納金は九千余圓を敷へられてゐるも目下の不況にあつて如何とも致しやうがなく委員のいづれも整理に手を焼いてゐるが、未納原因は獨り不景氣のみが手傳へしたものでなく、納税實力調査に當つた委員は甚だ調査に不完全を極め始んと収入のない家庭に對してなど標準もおかず賦課してゐるので町民の一部が騒ぎだしてゐる。

健康禮讚

九月一日の東京大震災を四日の晩にはじめて判つて魂消た話は今でも随分馬鹿々々しい。

ことごとく時々おかしくなる。さういふ世間離れのした山の中に生活してゐる間七八年といふもの風邪一つひいたことがなくて至極無事に済んだ、無刺戟で世の中から取残され代りに可成り香氣で随つて胃袋が廣がるばかりだつた。

人間の知識はさうも胃袋と不可分の關係にあるやうだ、大きな超脱俗的な茶碗の飯を五六杯も平げて健康禮讚を満喫してゐた時分に比して現在は肉類は一切喰つてはいけなないの甘いものはいけなないの極端に食ひものに對しての神経質にならざるを得ないのは何といつても人生にとつて淋しい限りだ。

この位詰まらないことはない、何とか甘い方法はないか、といつて毎朝早く起きて運動をするのも厄介だ、一日や二日ならやつて見たこともあるが長續きのしたためしがない。しかし昔に腹はかへられぬい薬を服用にはましたといふので家の前に物々しい金棒を拵へて毎朝これにぶらさがることにした、ぶらさがつて見ると何となく体の調子も良いやうだ、所が近所の連中は野郎神經でもなつたものではないかと思つてゐる相だ、然し他人にとつて笑ひこゝでも俺に取つては眞劍だ。

腸胃 専門 内科 腸胃科 院 醫科 村 松 (七〇一話電 町 南 千)

貸家あり 商店向き一ヶ所 家賃 十四圓五十錢 何れも水道の便あり 平町新川町(電話一三三番) 中野勇吉

佛國マルソー會社元詰 生葡萄酒 マルソー・ブランク・白 1.10 マルソー・ルージュ・赤 良品にして安價實行飛ぶが如し 西村屋藥局

貸家案内 五丁目 勤人向 四圓五十錢 長橋町 同 五圓五十錢 舊城跡二ノ丸同 八圓五十錢 柳町 同 六圓五十錢 白銀町 加藤營業所

通學服 新學期も近づいて参りました。可愛いお子様方の通學服がいろいろ豊富に取揃ひました。 黒小倉 1.80 紺ヘル 4.00 紺サージ 4.60 ながや洋服店 平二電203

外科 専門 X光線科 病室完備 増築落成 平町南町 上田外科醫院 電話二二九番

外科 一般外科 内臓外科 性病科 X光線科 入院隨意(自炊の便あり) 元赤心堂病院跡 安齋外科醫院 電話四七五

滋養、強壯劑として愈々好評 偉大なる藥酒 栗守酒 朝の一盃は精力の源泉、晩の一盃は休眠の助力 栗守酒特約店 大平屋藥店 代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話四六二)

内科 小兒科 (入院應需) 花柳病科 藤沼醫院 平町紺屋町 電話平國五〇七番

木村重友 特別出演 小虎丸 近日某座に來る

靴と帽子 入學進級には ゼビ「ツルヤ」へ 平町四丁目(電話一四〇) ツルヤ

熱心湯の お蔭様よ 平町七丁目の 湯治の方は二階座敷料共で僅か二十五錢よ 久々に御目見得 喜劇の親玉揃ひ

曾我廼家五童 大一座 曾我廼家滿十郎 當る三月十二日午後五時開演(三日間限り) 入場料 大人五十錢 後援 平町 樂館